

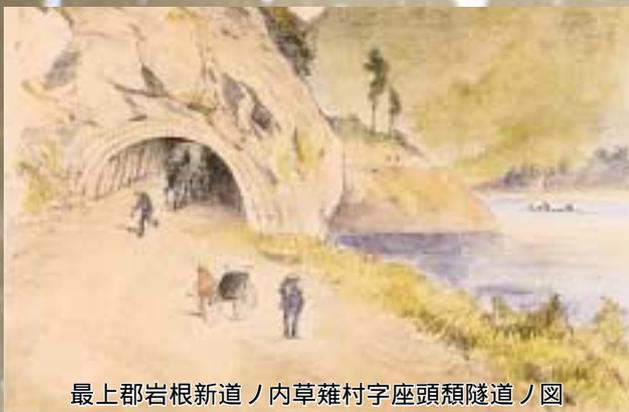
# みどりの樹

第14号

2002. 冬



南村山郡川口村新道ノ内大川ニ架スル堅磐橋ノ図



最上郡岩根新道ノ内草薙村字座頭顔隧道ノ図



北村山郡楯岡驛市街ノ内岩石切り割りノ図

— 附属博物館収蔵品 四 —  
みしまけんれいどうろ  
**三島県令道路**  
かいしゅう きねんがじょう  
**改修記念画帖**

高橋由一原画

絹本石版手彩色 明治十八年出版  
画面寸法 十七・六×二十三・六cm  
全三帖（栃木県・福島県・山形県）

山形県初代県令、三島通庸は自らの土木事業の成果を、洋画家高橋由一に記録させます。そうしてできたのが、この「三島県令道路改修記念画帖」と呼ばれる石版画帖です。

今年の五月に県の有形文化財に指定されたことをきっかけに、十月末に特別展を開催いたしました。「明治の記憶 三島県令道路改修記念画帖をひもとく」と題し、画帖を三冊とも公開し、「山形県之巻」に描かれた五十五カ所を訪れ、三島の道路改修の現状を写真におさめ、展示しました。

わずか十日間の開催でしたが、例年の倍近くの入場者があり、学外の方々からもご好評をいただきました。今回、この「みどりの樹」において誌上特別展を掲載し、もっと多くの方々に、この画帖について、そして附属博物館について知っていただきたいと思えます。詳しくは、特集記事をご覧くださいませ。

（山形大学附属博物館長 中川 重）

時は明治九（一八七六）年

明治政府による地方行政区の整理が行われ、山形、鶴岡、置賜の三県が合併して、新山形県が誕生しました。その初代県令（県知事）として就任したのが、薩摩藩出身の官僚、三島通庸です。富国強兵・殖産興業・文明開化という政府のスローガンのもと、三島は強力に近代化を推し進めてゆきました。まず最初に取り組んだのは道路開発です。それまでは人や馬の背中で峠越えをしていたところを荷車が通れるように道路を駆け、東京へと至る物流のルートを築き上げました。三島の在任期間わずか六年のうちに、県内各地の風景はかなり様変わりしたと言えるでしょう。

道路開発が一段落したところで、三島通庸は自分の事業の成果を写真や絵画で記録しようと考えます。当時、江戸を中心に活躍していた画家高橋由一は、三島に依頼され、道路、建物などを山形、福島、栃木の三県にわたって写生し、三冊の石版画帖に仕立てました。現在、この石版画帖は 三島県令道路改修記念画帖（以下、画帖）という名称で山形大学附属博物館に所蔵されています。明治期の山形を知る上で貴重な歴史資料であるとともに、美術品としても価値のあるものです。

このみどり樹の表紙に、画帖の写真の塾生は百五十名にもなります。また、洋画の利点 正確な記録ができること、耐久性があること をもって各方面に売り込んで歩きました。政府関係者の肖像画制作や古美術品の記録模写などは、洋画を広めるための手段だったと言えます。

そんな洋画普及活動の一環として、明治十四（一八八一）年、由一は三島通庸に対して新道を写生して刊行してどうかと提案します。いや、提案どころかもっと積極的な働きかけがあったに違いありません。新時代を切り開いていこうとする三島の精神に共感する部分があったでしょう。正式に三島から石版画制作を依頼された由一は、山形に向けて出発します。三島は山形県令のあと、福島、栃木の県令に転任していたため、三県分を制作することになりました。こうして明治十七年、約三カ月にわたる由一の写生旅行が実現し、翌年石版画帖が刊行されました。かつて由一のような有名な画家が山形を訪れ、明治期の山形の風景、人々の営みを描いたことは意外に知られていないようです。この特別展をきっかけに高橋由一という画家について興味を持っていただけたらと思います。

三島という人物

三島通庸は天保六年（一八三五）薩

を掲載いたしました。ご覧のとおりかなり厚みがあり、ふだん目にする画集のような形ではありません。「折帖」という特殊な綴じ方で作られています。台紙を一枚一枚、表を内側にして二つに折り、裏面の端を糊で貼り付けつなげていく綴じ方で、広げるとちょうど蛇腹のような形になります。表紙は桐の木が土台になっており、その上に和紙、さらに繻子織りの布が張られています。また、画帖の側面には金箔が貼られていたようですが、今ではほとんどその痕跡は残っていません。一方で石版画自体は褪色もしておらず、美しい色を保っています。特別展をご覧になれなかった方は、ぜひこの紙面で石版画をみて頂きたいと思います。

高橋 由一  
ではまず、三島通庸に依頼されて画

### 特集 誌上 附属 博物館特別展

## 明治の記憶

—三島県令道路改修 記念画帖をひもとく—



山形県庁の図



山銀本店前十字路口から文翔館を望む



丁髷姿の自画像  
慶応2（1866）年頃  
油彩・カンヴァス  
48.0 x 38.0cm  
空間日動美術館蔵

帖を制作した洋画家高橋由一についてみていきましょう。由一の自画像と伝えられている作品（右図）があります。丁髷を結って前方を見据える姿は、洋画家と言うよりは武士そのものです。由一は、「近代日本洋画の父」、「日本油彩画の開拓者」などと言われますが、実際は絵師、画工として長い間幕府に仕えていたのです。彼の意志の強さ、ひたむきさが伝わってくるような作品です。由一の名前を聞いてピンとこない人も、次にご紹介する 鮭（下図）は見たことがあるのではないのでしょうか。彼の代表作であるこの絵は、美術

の教科書に載ったり切手になったりしているのが、皆さんの目に触れる事も多いはずですが、ただの魚の絵に過ぎないのですが、由一は本物そっくりに描くために、西洋の新技法である油絵の具や筆を完璧に使いこなしていることがわかります。



鮭  
明治10（1877）年頃  
油彩・紙 140.0 x 46.5 cm  
東京芸術大学蔵 重要文化財

文政十一（一八一八年）、江戸の佐野藩邸に生まれた由一は、二十歳のころ武芸を捨てて画業に従事することを決意します。はじめは日本画や中国の文人画などを学んでいましたが、二十歳の時、舶来物の石版画を見て感動し、洋画家に転向しました。由一が心を動かされたのは、西洋の絵にみられる写実的な描写でした。本物そっくりに描かれていることに驚き、その上で、ある種の美しさを感じたのです。自分の目指すものが洋画であると確信した彼は、その時から洋画研究に邁進します。その一方で由一は、日がな制作だけしていたわけではありませんでした。洋画を日本に広めるために画塾を開き、多くの洋画家を育てました。創立以来

摩国鹿兒島郡に、藩主に仕える鼓師範の子として生まれ、薩摩藩の中で西郷隆盛らの薫陶を受け、尊皇攘夷の「臣の道」を走り続けた血気盛んな青年時代をすごしました。慶応四年（一八六八）都之城（宮崎県都城市）の地頭となつて実績をあげ、大久保利通に推され中央政府に東京府権参事として迎えられるのです。明治七年（一八七四）

酒田県令を兼任、九年（一八七六）には統一山形県の初代県令となり、その後、福島・栃木の県令を歴任、十七年（一八八四）には内務省土木局長として中央に戻り、翌年、内閣制度初めての



三島 通庸

警視總監となった経歴の持主です。

三島通庸ほど多くの形容詞がついた人物はいたでしょうか。有名な「鬼県令」、「土木県令」のほか、自由民権運動の弾圧者として、「悪逆無道」、「独断専行」、「政府の傀儡」等々の悪評。また、「獅子奮迅」、「一意専心」、「不惜身命」や「先憂後楽」、「経世済民」など、「鬼」とは対照的な、四字熟語辞典をめくらなければならぬような形容もまた多いのですが、「人の嘆きを横目に見まか」という当時の庶民の揶揄はあまりにも有名です。

三島が殖産興業の一環として強行した道路づくりは二十力所を超え、橋梁は六十五橋に及びます。三島の決断は山形県を四方の隣県すべてとつなぐことになり、旧羽州街道の改修は県内を縦貫する大動脈となつて、県内各市町

村を結ぶ幹線も充実しました。また、中央との結びつきが強化されるとともに、物資の円滑な輸送による経済効果は飛躍的に向上したのです。また、養蚕、畜産果樹栽培（山形にサクランボの苗木を持ち込んだのは三島であり、現在の果樹王国山形の礎となっているのはご存じでしょうか）、教育による人材育成、病院の設立・医学教育、治安機構の確立、三島の業績は枚挙にいとまがありません。しかしその反面、強引なやり方により各方面から嘆きの声があがっていたのも事実なのでした。確かに三島の略歴を追っていくと、中央集権主義ともいえる言動は、「山形のための道づくりでもあつたろうが、明治天皇の行幸を仰ぐための道をつくつたのではないか」との批判もあながち否定できません。



地域の方も多数訪れた特別展会場

### 画帖に残された道そして今

この特別展では、三島の残した道をたどり「明治の記憶」を探すことに主眼を置きました。三島に対するこれまでの賛否の記述を頭に入れての調査開始でしたが、三島と同じ景色を見、同じ場所に立ち、三島も耳にしたであろう同じ訛り（なま）を聞き、「土木県令」としての三島の業績と魅力を感じ、再発見する旅となりました。



山形県東置賜郡中山村新道の内字掛け入り石の下より大川に架かる境橋を南に望む図

図版は上山市中山の掛け入り石から境橋（現 榮橋）を描いています。掛け入り石は、慶長五年の関ヶ原、出羽合戦のおり、上杉勢がこの石の下に潜み追撃する最上勢を撃退したことから「隠れ石」ともよばれています。

中山は中世の中山城を中心にした城下町で、上杉藩最北の砦でもありました。掛け入り石は、昭和二十九年に奥羽本線敷設工事の際にダイナマイトで割削られ現在の形となっています。もとは東置賜郡中川村大字中山村といい、昭和三十年代はじめには、赤湯か上山への合併かで、住民投票まで行われたこともありました。形こそ変われ、掛け入り石は悠久の流れの中で、地区の歴史を見つめ続けています。



山形県南置賜郡米沢市街の内桐町（あらまち）の図版は桐町（現 米沢市中央四丁目）

の中通りから東方（米沢市役所方面）を描いています。「桐町」は「新町」と同語で、米沢における米穀取引市場として最初に繁栄したことを物語ります。

明治に入つての、桐町の大きな変革のひとつに明治十二年、街路を流れていた河川を埋没し、両側に切り開き、道幅を広げることがあげられます。この工事により交通の便が良くなった桐町は、ますます賑わいをみせることになりました。明治の頃、町中の道幅はほぼ四間（約八メートル）に統一されていたといいますが、この図版を見る限りでは、道幅はもっと広く感じます。現在の四車線道路といっても遜色のない



いような立派な道路に見えるのは、三島の依頼を受けた由一が、三島の業績を残すため画帖を作る、という大前提の中で、多少のデフォルメを加えたように思えます。

図版正面奥、三階建ての目につく建物は、貸座敷業の「都亭」だったことが判明しています。明治初期には市内に娼妓（しょうぎ）を置く貸座敷が繁盛し、不夜城のようであったと伝えられています。桐町角にあったのが都亭で、その場所から図版の方向が確定できました。現在、都亭はもちろん存在しませんが、当時都亭を経営していた方は、今も現地で商売をされています。まわりの山々の形など、自然の風景をたよりに図版の現在地や方向を調べていかねばならない中で、この桐町を描いた図版は、「描かれた建物からの推理」という意味で珍しい例といえるでしょう。

山形県西田川郡押切村新道より

鳥海山を望む図

図版は三川町押切新田地内の街道と休み石、そして鳥海山の遠望を描いています。押切村は、西は赤川、東は藤島川に臨む庄内平野の稲作地帯で、酒田と鶴岡のほぼ中間地の要所にあたり、図版の道は現在の余目・加茂線にあたります。

描かれている休み石は、江戸から明治にかけて一里の中に二、三カ所設置され、旅人の多くが荷物を背負っていた当時は、旅人にとって有り難い存在だったことでしょう。休み石は現在、長い勤めを終えて三川中学校の校庭に静かにたたずんでいます。



この図版の現状撮影に鳥海山は不可

欠と考え、鳥海山がはつきり望める時を待ちましたが、快晴の時は霧がかかったように姿が見えず、また別の日は雲で隠れ、通うこと三回目にして暮れなすむ鳥海山と黄金色に輝く庄内平野を撮ることができました。当時、由一は、一度で鳥海山の麗姿に出会うことができたのでしょうか。



山形県西田川郡田川村田川温泉場の図

図版は鶴岡田川（現 湯田川）温泉

に至る小国新道の小平地区を描いています。現在は筍の産地として有名になり、ひなびた風情と周辺に点在する多くの史跡・名所から庄内の名湯に数えられています。

小平は地元では「こでら」または「おでら」と言うようですが、現在のこの小字名は残っておらず、年配の方でないと聞き覚えのない地名となってしまう



いました。道路の様子は変化しましたが、水田が山の裾野まで続く風景は明治の面影を充分残す場所でした。

もう一つの図版は湯田川の温泉街から正面に虚空蔵山を描いています。山が実際の形とは異なり、少々大きめに描かれているのが気になるところです。

特別展の会場でも、この誌面でも図版のほんの一部しかご紹介できませんが、本館には、県内分全図版の「明治」と「平成」がアルバムに記録されています。三島と由一、そして私達の先祖が残した「山形の道」を探しにお願い。



## 食

PART 3

旬の息づかい  
山形県の自然食誌のひとこま

石 島 庸 男

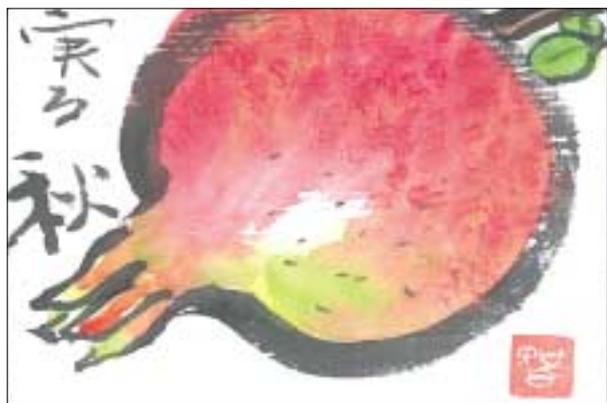


いしじま つねお

山形大学教育学部教授  
専門：日本教育史

ある日のことです。ふるほんや栄文堂で、お茶受けに四方山話に花を咲かせていました。そこに山男風の若者が来て、しばらく和漢書をひっくり返していました。いつのまにか話に入ってきて言うには、「山形県の山の幸、川の幸、海の幸で、体に良いとか病気に効くとか書いてある古文書、郷土史などありませんか」と。

一瞬静かになったものの、『山形県の食事』（農文協か）や『かてもの』（米澤藩の飢餓対策として発刊された食べられる野草類）、市町村史では民俗編かなと早速探して



頁を繰る人、はた薬草関係ならどくだみ、せんぶり……と少しましくなります。「薬草は漢方の方で大体分かってるから」と答えつつ、何故そのような質問をし、何がねらいなのかと一同興味津々。おそらく、こ

の文を読まれている人のほとんどが知っている大会社の一研究員だそうです。全国を旅しながら、その土地土地の自然からとれる食物を食べ、調べ、サンプルとして持ち帰り、これまで全く知られていない薬用効果の発見に努めているということでした。見つけると、徹底して研究から栽培へ進む、またもう一つの目的は、地域の食生活全体の中で、自然からの恵みが、不足がちな蛋白質(昔は)やカロテン、ビタミン、ミネラル等の補いになっているのではないかと等研究しているとのこと。この会社名を聞いて二度びっくり、例えば自動車メーカーといったような全く研究と関係ない会社なのです。

新しい仕事を開発するには、大変な努力がいるものだと一同感心してしまいました。望むような史料は入手し得なかつたものの、日焼けした顔は笑っています。全国を食べ歩くのは楽しいが、なかなかこれはというものには会えませんと言いつつ、それにしても山形県の自然食生活は日本一ではないだろうか。とにかくこんな自然を食べている県民はいませんね」と言います。貧乏県だからかなという問いに「それもありませんが、自然への観察力、工夫など頭が良い人が多いのでは」と誉められ、ついには日本三大教育県山形だものと話がはずみまし。でも総合的な食生活は体にも脳への発達にも良いので関係あるかもねーには大笑いです。

今八十翁の会田忠雄氏が「思い出」(一・二)(『紙魚』三四・三五号 山形古書研究会)に書いた、春から夏にかけての自然食と思われるものを記してみよう。

アサツキ、露(ふき)のとう、うど、こごみ、木の芽、うるえ、みづな、はこべ、よもぎ、わらび、筍、せんぶり、つばな、すかな(スキャンポ)、たな米、二つまゆのさなぎ(まゆみ)、田にし、杉やに(チューインガムの代り)川魚いろいろ、池の魚、カミキリ虫の幼虫、蟬いろいろ、ガム(げんころうつか?)、メロコ(川魚か?)、雀・小鳥やその卵、蝮(まむし)や他の蛇、ところ、花の蜜、イタドリ、土筆。

奥様と話し合いながら数えてみたら、たちどころに数十は超えたということです。上山市生れの上山在住ですので、地域の呼名で書かれているので分からないものもあるでしょう。

「思い出」(その三)に続きが書かれるのかもしれませんが。ガムや蟬などファープルの昆虫記にも、たしか食べ方が載っていたように記憶していますが、山形県ではどんな風に料理したのでしょうか。

機会がありましたら、皆さんも周りのお年寄りに聞いてみるとおもしろいかも知れません。

# 天与のくすり

北 目 文 郎



きため ふみお

山形大学医学部教授  
専門：微生物学

細菌やウイルスや真菌（カビ）のような微生物が身体のごくで異常に増殖して起こる病気を感染症といいます。感染症を治療する薬を化学療法剤とか抗微生物薬といい、鎮痛剤とか解熱剤とかの一般の薬（対症療法薬）とは違って、さかんに増殖している微生物に直接作用し（原因療法薬）、その増殖を阻止する性質を持っています。ウイルスやカビによる感染症に有効な抗微生物薬はごく僅かしかなく、抗微生物薬の大半は細菌感染症に用いられるものです。これはヒトの細胞に害を与えずに、ウイルスやカビだけに毒性を発揮するような物質（このような性質を選択毒性といいます）が極めて少ないことによりです。細菌とヒトでは、その細胞の構造や増殖様式がいくつかの点で異なるため、選択毒性が発揮されやすいのです。

細菌感染症に用いられる抗微生物薬の大半は、抗生物質とよばれる天然有機化合物で、人間が知恵を絞って試験管の中で合成したものはほんの僅かしか

ありません。不思議なことに、抗生物質はある種のカビや細菌のような微生物が自然界の中で造っているのです。フレミングが一九二九年に発見していたペニシリンが臨床で著効を示すことを一九四〇年にフローリイらが報告して以来今日まで約六十年間、世界中の研究者が抗生物質を生産している微生物（主に、地表から約二十cmほどの地中に生息している放線菌）を地球上隈無く探しまわって発見した抗生物質とそれに手を加えたものを臨床で使っているのです。天は様々な微生物を地球上に造り、そのいくつかはヒトに感染症を起こし、そのいくつかは感染症を治療する抗生物質を生産しているのです。驚くべきことは、今日まで臨床で使われてきた抗生物質の種類はせいぜいたったの十種類程度だということです（下表を参照）。

生物は増殖の過程で遺伝子に突然変異を起こし、これまでとは異なる性質を持った細胞や個体を自然に生じさせています。もしも、その変異体が抗生物質に抵抗できる性質を持つ細胞（抗生物質が効かない耐性菌）だったらどうでしょう。感染症の治療を目的として抗生物質を使えば使うほど、抗生物質が効く元々の細胞（感受性菌）を減少させ、耐性菌だけを生き残らせてしまうでしょう。一般に、細菌は約三十分間で細胞の数が二倍になるスピードで増殖しますので、ごく僅かしか生まれられない突然変異体で

ありませぬ。不思議なことに、抗生物質はある種のカビや細菌のような微生物が自然界の中で造っているのです。フレミングが一九二九年に発見していたペニシリンが臨床で著効を示すことを一九四〇年にフローリイらが報告して以来今日まで約六十年間、世界中の研究者が抗生物質を生産している微生物（主に、地表から約二十cmほどの地中に生息している放線菌）を地球上隈無く探しまわって発見した抗生物質とそれに手を加えたものを臨床で使っているのです。天は様々な微生物を地球上に造り、そのいくつかはヒトに感染症を起こし、そのいくつかは感染症を治療する抗生物質を生産しているのです。驚くべきことは、今日まで臨床で使われてきた抗生物質の種類はせいぜいたったの十種類程度だということです（下表を参照）。

表 臨床で使われている抗生物質の基本的な種類とその仲間

抗生物質の種類	仲間
-ラクタム系	ペニシリンG、セフトキシチンなど
アミノグリコシド系	ストレプトマイシン、カナマイシン、ゲンタミシンなど
テトラサイクリン系	テトラサイクリン、ドキシサイクリンなど
マクロライド系	エリスロマイシン、ロイコマイシンなど
クロラムフェニコール	クロラムフェニコール、チアムフェニコールなど
その他	リファンピシン、リンコマイシン、ポリミキシン、バンコマイシン、グリセオフルピンなど

もあつという間にその数は膨大になります。この六十年間、特に我が国では抗生物質を湯水のように使ってきた経緯があり、ヒトに感染症を起こすほぼ全ての細菌がいずれかの抗生物質に耐性を示しています。何種類もの抗生物質に同時に耐性を持つ細菌（多剤耐性菌）も存在します。そもそも自然界での圧倒的多数は感受性菌で、耐性菌はごくごく少数なのですが、抗生物質を使うということが感受性菌を減らして、その代わりに耐性菌をはびこらせ、感染症の治療を困難にしているのです。

一九七九年以降に発見された抗生物質は皆無であることを思うと、我々は天から授かった数少ない抗生物質で感染症と闘いながら地球滅亡の日まで生きてゆかなければなりません。抗生物質の意味のない使用と過剰使用が耐性菌を選択する」との警告がなされて久しい今日、山や川や野に咲く草花と同じように、抗生物質も天から授かったかけがえのない自然の一つだと思えば、大切にしないわけにはいかないのです。

# 山形大学各種催事案内 (平成14年12月から平成15年3月まで)

## 1 山形大学地域貢献シンポジウム

「地域と大学とのハーモニーをめざして！  
- おらほと大学、なじよすっべ -」

日 時：1/23(木) 13:15~16:45  
会 場：山形市 ホテルメトロポリタン山形 4階「霞城の間」  
参加対象者：市民の皆さん(高校生・大学生含む)・県市町村関係者・県内各教育機関関係者等  
プログラム：13:15 開会・学長あいさつ  
13:30 話題提供者による意見発表  
14:15 パネルディスカッション  
主 催：山形大学地域連携推進協議会

## パネルディスカッション

- ・コーディネーター 松井 宏文さん(NHK山形放送局長)
- ・パネリスト \*宮坂不二生さん(日本銀行山形事務所長)
- (\*:話題提供者) \*松田 貢さん(金山町長)
- \*杉山 健二さん(JA全農庄内本部長)
- \*高橋まゆみさん(主婦)
- 鬼武 一夫(山形大学副学長)
- 富樫 律子(山形大学職員)
- 石黒 孝宏(山形大学人文学部3年生)

お問い合わせ・参加申し込み：山形大学総務部企画室(023-628-4844)

## 2 平成15年度大学入試センター試験

1/18(土)~19(日) 山形市 山形大学小白川地区試験場  
米沢市 山形大学工学部試験場  
鶴岡市 県立鶴岡中央高等学校試験場

## 3 入学試験

- (1) 一般選抜(前期日程)
- 2/25(火) 人文学部、理学部、農学部
  - 2/25(火)~26(水) 教育学部、医学部
  - 2/25(火)~27(木) 工学部
- (2) 一般選抜(後期日程)
- 3/12(水) 人文学部、教育学部、理学部、医学部
- (3) 工学部Aコース専門高校卒業生選抜 2/26(水)
- (4) 理学部推薦入学 2/6(木)
- (5) 工学部Aコース推薦入学 2/7(金)
- (6) 私費外国人留学生選抜
- 2/13(木) 人文学部
  - 2/25(火) 医学部(医学科)、農学部
  - 2/26(水) 教育学部、医学部(看護学科)

## 4 入学試験(大学院第2次募集等)

- ・社会文化システム研究科 2/14(金)
- ・教育学研究科 2/12(水)
- ・理工学研究科(理学系・博士前期課程) 3/3(月)~4(火)
- ・理工学研究科(博士後期課程) 3/5(水)
- ・医学系研究科(医学専攻) 2/13(木)
- ・医学系研究科(看護学専攻) 1/9(木)
- ・理工学研究科(工学系・博士前期課程) 1/29(水)~30(木)
- ・農学研究科 1/30(木)

## 5 平成14年度学位記・修了証書授与式

- ・鶴岡地区(農学部) 3/17(月) 鶴岡市 東京第一ホテル鶴岡
- ・米沢地区(工学部) 3/24(月) 米沢市 米沢市民文化会館
- ・山形地区(人文学部・教育学部・理学部・医学部) 3/25(火) 山形市 山形県民会館

## 6 その他

- (1) 教育学部フレンドシップ「おもしろ実験教室」
- ・1/11(土) 9:00~11:30 山形市総合学習センター「万華鏡を作ろう」小学生(3年生以上)30人
  - 「燃えるシャボン玉作りに挑戦しよう」中学生20人
  - ・2/8(土) 9:00~11:30 山形市総合学習センター「電池作りに挑戦しよう」小学生(3年生以上)30人
  - 「エジソン電球作りに挑戦しよう」中学生20人
- \*山形市総合学習センターに、電話(023-645-6163)で申込んでください。募集人数に達し次第、締切ります。
- (2) 山形大学フィルハーモニーオーケストラ定期演奏会  
12/22(日) 16:00開演 山形市 山形県民会館
- (3) 小さな天文学者の会「冬の星空散歩」  
1/25(土) 18:00~19:30(雨天・曇りは中止)  
山形市小白川キャンパス 大会館屋上
- (4) 東北地区大学スキー大会
- ・開会式 1/22(水) 15:00~ 蔵王体育館
  - ・競技 1/23(木)~24(金) 男女大回転、回転 蔵王スキー場 ハーネンカムCコース
- (5) 電子ジャーナルに関する講演会(附属図書館主催)  
開催日・場所：2月上旬 山形大学事務局会議室  
講 師：土屋 俊氏(千葉大学文学部教授)  
参加対象者：県内大学図書館職員等

お問い合わせは、山形大学総務部総務課文書広報係まで(023-628-4008)

## 編集後記

最近、JABEE旋風が全国で吹きまくっています。JABEEとは、一九九九年に設立された日本技術者教育認定機構(Japan Accreditation Board for Engineering Education)の略で、大学などの高等教育機関の教育プログラムが社会の要求水準を満たしているかどうかを外部機関が公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する非政府団体の専門認定制度です。教育機関から提出された自己点検書の書類審査と教育機関での実地審査を、関連学協会から選ばれた複数の審査委員が実施し、JABEEの認定委員会が認定が最終決定されます。これまで、東京農工大学工学部化学システム工学部など三つの教育機関が認定されました。

このたび、本学工学部物質化学工学科では、山形大学全学の協力を得て、「YU応用化学技術者教育プログラム」と、「YU化学工学化学技術者教育プログラム」の二つを立ち上げ、来年の本審査受審前の準備として、今年十二月の試行審査を受けるために自己点検書を作成しました。前記のプログラムの学習・教育目標は、A・技術者としての倫理観教育、B・専門知識の習得、C・データ収集および解析能力、D・問題を解決する能力、の四つで、これらの能力をもった卒業生であるかを厳密に評価して証明するプログラムとなっています。要は、この教育プログラムを修了した学生に対して、品質を保証するものですが(ISOに類似?)、国際的にも通用する技術者を輩出するためには、これまで以上にスパイラルアップされた教育内容の改善が不可欠となります。以上、工学部でのJABEEへの取組みの現況を述べましたが、今後、JABEE認定を受けた卒業生の就職に際しましては、産業界のますますのご協力とご配慮をお願いする次第です。(広報誌編集委員会委員 尾形健明)

「みどり樹」に対するご意見・ご質問等を、お気軽にお寄せください。お寄せいただいたご質問等には、本紙面に「皆様からのQ&A」コーナーを設けてお答えさせていただきます。

〒990-8560  
山形市小白川町一丁目4-12  
山形大学総務部総務課文書広報係  
TEL 023-628-4008  
FAX 023-628-4013  
Eメール sombun@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

この「みどり樹」は、インターネットでもご覧いただけます。  
アドレス <http://www.yamagata-u.ac.jp>

「みどり樹」は、3月・6月・9月・12月に発行する予定です。



この印刷物は再生紙を使用しています。